

## 第 8 回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録

- 1 日時 令和 3 年 9 月 9 日（木）午後 3 時 00 分～午後 4 時 35 分
- 2 場所 オンライン
- 3 出席者 野口委員長、長谷川副委員長、齋藤委員、田倉委員、片岡委員、三澤委員、中川委員、河原委員、湯澤委員
- 4 事務局 教育振興部長、光が丘図書館長、計画調整係係長、計画調整係職員
- 5 公開の可否 非公開
- 6 傍聴者数 オンラインのため、傍聴を実施していない
- 7 議事等
  - （1）議事確認
  - （2）議題
    - ・情報を広げ、深める方法
  - （3）検討委員会のこれまでの経過とまとめに向けて
  - （4）その他
  - （5）次回の予定
- 8 配布資料
  - （1）第 7 回（仮称）これからの図書館構想策定検討委員会 議事録
  - （2）第 7 回検討委員会での意見
  - （3）検討委員会のこれまでの経過とまとめに向けて

## 9 会議の概要

### (1) 議事確認

委員長より、資料1「第7回(仮称)これからの図書館構想策定検討委員会 議事録」に基づき、議事内容確認  
(委員による議事承認)

### (2) 議題

・情報を広げ、深める方法

#### ○ 委員長

「情報を広げ、深める方法」について、プレゼンテーションをお願いします。

#### ○ 委員

私は練馬区で、子ども関係の仕事をしていますので、この検討委員会に参加したのは、子どもたちが本の世界との出会いを広げ、主体的な学びを深めていくことができる図書館が練馬に欲しいという思いからでした。

しかし、前回のプレゼンテーションを含め、この検討委員会に参加させていただく中で、図書館が情報センターとしての役割を果たすとしたら、子どもたちにとってどのような存在になるのだろう、ということを考えるようになりました。

また、練馬区は、暮らしている住民が多い「まち」なので、子どもだけでなく、練馬区で暮らす全ての世代の人が、どのように本や情報に出会い、興味関心を広げる機会を得て、知見を深めていけると良いだろうとも考えるようになりました。

そして、私の考えがたどり着いたのが、実践的な「生涯学習機能」の充実です。

私は、地域の人的リソースや知見も「情報」だと思います。地域の人的リソースが図書館に集まることで、人と人が繋がり、体験が広がるのだとしたら、それはとても豊かな生涯学習になるのではないのでしょうか。

今回のプレゼンテーション資料では、実際に私が知っている身近な人たちが、情報センター機能をもつ未来の図書館をどんな風に利用できたらいいだろう、という空想のイメージを膨らませ、具体的に、こんな設備やサービスが欲しいという事例を紹介してみました。

資料は既にお読みいただいているという前提で、ポイントだけ説明させていただきます。

みんなが暮らす「まち」の図書館・情報館のビジョンは、練馬区で暮らす全ての人に向けたものであるということがポイントです。この施設は、全ての人へ豊かな生涯学習の機会を、本や情報を通して提供します。

ミッションとしては、「1.『まち』で暮らす人たちに、『本・情報』に出会い学ぶ機会を

提供する」、「2.『本・情報』を通して、興味関心が広がる(知る)場になる」、「3.『まち』や『人』とつながり、興味関心を深める(体験の)拠点になる」としました。このように、分かりやすくミッションを掲げることが大事であり、新しい図書館・情報館は、子育て家庭、小学生、中学生、シニア世代、ハンディキャップのある方、日本語を母国語としない方、全ての方にとって居心地が良く、魅力的であったら良いと思っています。

まず、「まち」で暮らす人と共に、図書館・情報館がある事例として、いくつかのケースを想定しました。1つ目は、夫婦共働きで子どもは小学3年生と4歳の家族です。

最近カフェが併設された図書館も増えていますが、カフェ内で子どもたちが騒ぐことは困るので、オープンテラスや、お弁当が食べられる芝生広場があると、子育て家族には助かります。

また、館内の子どもコーナーは、ぜひとも、話しても大丈夫な空間を実現してほしいです。これは小さな子どもがいる家族が、図書館に行くことができるか、できないかに係る大きな問題です。子どもはヒソヒソと話すことが出来ませんし、長時間黙って本を読むことも難しいからです。子どもたちの話し声が響き渡る賑やかな図書館であれば、子育て世帯の利用はぐんと増えると思います。

今の子どもたちは、一人一台タブレット端末を持つデジタルネイティブです。そんな子どもたちには、本だけでなく動画等も含めた情報の提供が出来ると良いと思います。私は、図書館司書の方がどのような教育を受け、どのような資格やスキルを持っていらっしゃるかの詳細は存じ上げませんが、本以外の情報提供を幅広く手掛けることが、図書館司書の方だけではカバーしきれないのであれば、その分野に関して幅広い情報や深い知見を持っている人の力を借りて収集する、コーディネート業務が必要になるのかもしれませんが。その分野に精通した人の知見が紹介されている、つまり、誰かの知見が、興味関心を深めていくナビゲートをしてくれる、本や情報を通して人と人をつなぐことができる図書館・情報館であれば、とても魅力的です。

また、本や情報だけでなく、その分野のスペシャリストの「人」と出会える講座や企画があれば、より興味関心が深まると思います。例えば、「放課後NPOアフタースクール」という団体が、小学校の放課後の時間に様々な知見を持った地域の人を「地域先生」として呼び入れ、子ども向けプログラムを行っています。図書館・情報館でも、このような企画ができると良いと思います。また、そうした企画が図書館・情報館で実施されることが、小学校の図書室でも紹介されることで、全ての子どもたちに機会が提供されることとなります。

今回のプレゼンテーション資料では、地域先生のことを“「まち」の先生”という呼び名で書きました。「まち」の先生の講座は、子ども向けだけでなく、大人向けにもあると良いと思います。

コロナが始まってから、オンライン形式での講座が大変増えています。わざわざ会場に向かずとも気軽に参加できるスタイルに慣れてきている人たちも多いはずなので、オンラ

インで開催もできると良いです。また、特に子どもと一緒に図書館・情報館に来ている保護者には、子どもコーナーに大きなスクリーンがあり、企画や講座が視聴できるサービスがあると良いと思います。

子育て世代やビジネスマンは忙しく、図書館に行く時間もあまり無いので、Amazonを利用する方も多いです。図書館検索サイト「カーリル」もありますが、Amazonのように、これまで借りた本を参考に、興味のある本や関連図書が提案されるサービスがあれば、利用率は上がると思います。公共施設として、個人情報の活用は難しいということであれば、せめて、本の目次が閲覧できるようになっていれば、借りてみたら予想と違ったという徒労が減るので、利用する人が増えると思います。しかし、一番利用が増えるサービスは、リクエストした資料が3日以内に届くことです。予約してから、2週間、時には1か月先にならないと読めないというタイムロスは、忙しい生活を送る人だけでなく、多くの人の利用を遠ざけます。これからの時代に、絶対的に必要なサービスだと思います。

2つ目の事例は、「まち」の図書館・情報館を利用しないタイプ、元気なサッカー少年を想定した事例です。既に図書館を利用し、講座等にも参加する人は、この先もそう思うと思いますが、練馬で暮らす全ての人たちに向けてと考えた時には、現在利用していない層が、どうしたら利用しやすくなるかを考えるべきだと思います。

この子どもたちが本や情報に親しむ機会を提供できるのは、学校の図書室です。学校の図書室を介して、本や情報に親しみ、「まち」の人と出会い、学びを深めていくために必要な具体的なサービスや大人の関わりをイメージしてみました。

事例の少年は、特定の分野にしか興味を示しません。お母さんはコロナでパート先を辞めたので、経済的に、習い事等子どもの体験を広げることがさせあげられない状況です。こうした子どもたちが本や情報と出会うことは、図書室の先生やお手伝いをしてくださる方々のサポート力に掛かっていると思います。例えば、図書館・情報館で取り上げている分野と同じ紹介コーナーが、練馬区内の小学校全部でも同時期に紹介されることが必要です。また、図書館・情報館で実施する企画に参加したくなるような誘い掛けも必要です。

3つ目は中学生の事例です。女の子は部活に入っていないくて、放っておけば繁華街に遊びに行きそうなタイプで、男の子はコミュニケーションを取るのが苦手なタイプで友達も少ないという想定です。中学生に必要なのは仲間です。「まち」の先生が顧問になってくれる、図書館・情報館が主催する部活での、自分と興味関心を共有できる仲間、その分野の魅力へとナビゲートしてくれる大人との出会いがポイントです。出会った人や、自分や人への肯定感が、その後の人生を変える程に大きな体験となるのが思春期です。ネットのネイティブ世代だからこそ、その世界だけに入り込まないでほしいと願っています。図書館・情報館が、中学生と社会をつなぐ窓口になれば良いと思います。

4つ目はシニア世代の事例です。公民館等、シニアの居場所は既に地域にあるので、図書館・情報館は、もともと図書館・情報館を居場所として通っているタイプ方に、より豊かな

生涯学習の機会を提供できる場になれば良いと思います。前回のプレゼンテーションでも話題になりましたが、デジタルデバイスの使い方に四苦八苦しているシニア世代の方は多いので、そのサポートはもちろん必須です。

5つ目の事例は、国際結婚した人、日本語を母国語としない人を想定しています。日本で生活していて日本語が話せたとしても、今の図書館はあまり利用しやすい場所ではありません。子どもたちに、多様性を尊重するグローバルな感覚を身につけて欲しいのであれば、住民として日本で暮らす人たちが、日本人と同様に使いやすい図書館・情報館になることから始められたらと思います。

ニュースで知ったのですが、東京工業大学の学生が、声帯摘出者向けのA I音声合成プラットフォームを作成したそうです。失う前の自分の声をA Iが覚えて、打ち込んだ文字を自分の肉声で聞かせてくれるというものです。そしてこの技術は既に、視覚障がい者向けの「音読」で活用されているそうです。誰かが読んだ声を録音するのは大変な労力ですが、声さえ登録したら、文字を打ち込むことで音読に変換できるのなら、大幅に短縮できます。また、価格も安く利用できるそうなので、このような便利な機能をどんどん活用し、サービスを充実できれば良いと思いました。

参考資料にはイメージとして、西池袋公園のオープンテラス付きカフェと、宮城県都城市「Mallmall」という施設内にある都城市立図書館の写真を掲載しました。こちらの図書館は子どもコーナーに、ゴロゴロできるように敷物を敷いているスペースが多くありました。できればソフトクッションのようなものがあればもっと良いと思います。また、月替わりのおすすめ本・情報のコーナーには、多ジャンルに渡って本がセレクトされていて素晴らしく、どのような選書をしているのか大変興味が沸きました。

ティーンズコーナーには、学習だけでなく、飲食可能なオープンスペースや作業スペースもあります。

横長に広がる長い雑誌棚もあり、量と質が大変素晴らしかったです。雑誌は暮らしの中で大変身近で、暮らす人をターゲットにした「まち」の図書館・情報館では、充実をさせたいコーナーです。「練馬は、雑誌コーナーがすごいらしいよ!」というのも、特色になると思います。

また、椅子の配置や、ちょっと座って本が読めるスペースなどの充実は、ソフト面で変えられることなので、ぜひ充実してほしいです。

## ○ 委員長

ありがとうございます。質問やご意見等ございませんでしょうか。

## ○ 委員

既存の図書館をコミュニティの場にすべきでは、ということでしょうか。これまでの図書

館は、情報を得る場所ではありましたが、コミュニティの場というよりは静かに本を読んだり、本を貸りる場所でした。今回のプレゼンテーションは、図書館がコミュニティの場となるための具体的なアイデアが詰まっている印象でしたが、その解釈で間違いはないでしょうか。

#### ○ 委員

今回のプレゼンテーションでは、コミュニティという言葉はあえて使っていません。人が情報を深める時に、資料を読むだけでなく、先人の後ろ姿を見るような、極めて人との出会いがあると良いと考え、人という言葉を使いました。コミュニティと言えらしたら、中学生の事例で書いた「まち」の部活ですかね。特にコロナになってから、部活動をしていない中学生は、本当に孤独です。帰宅後はインターネットの世界にどっぷり浸かっている子も多いので、「まち」の部活があるといいなど。他は、コミュニティというよりは、単発の出会いのようなものと考えております。

#### ○ 委員

コミュニティ未満の、人と人が繋がるきっかけ作りということでしょうか。

#### ○ 委員

繋がるのが目的ではなく、情報を学び、知り、広げるという、生涯学習を目的としています。

#### ○ 委員

きっかけ作りは、既存の図書館の機能にもありましたし、人と人が行き交う場所として、少なからず交流もあったと思います。その拡充という事でも良いのかなと思いました。

また、名前を聞けば目的が分かるような斬新な施設名にし、改革していくのも良いと思いました。図書館としてのコンセプトをしっかりとまとめた上で名前を決め、こういう表現でアピールしますと広報的に伝えれば良いと思います。

#### ○ 委員長

コミュニティという視点で捉えた場合、何か意見はございますか。

#### ○ 委員

図書館の強みは、どう考えてもアナログ的です。どんなにネット社会だと言っても、図書館には、集える場所があり、それが強みだとも思うので、それを活かした形にするコミュニティもあるのかなと考えました。コミュニティという視点で考えると、今回のプレゼンター

ションにある内容は全てコミュニティの発展形になりますし、何を目的とするかで考え方も変わると思います。

## ○ 委員

前回の議題にも出ました、情報や資料の提供、情報リテラシーをどう育成していくか、また、学習機会をどのように提供していくのか、それによっても情報を広げたり深めたりすることが出来ると思います。

情報は、単純に本があるから見てください、棚に市民活動のパンフレットが置いてあるから見てくださいではなく、発信方法はもちろんですが、中身も重要です。図書館の枠に捉われず、マルチレベルと言いますか、国や都道府県等の上からの情報、逆に、市民活動を行っている方や学校、地域内等の下から上への情報、また、他自治体やほかの地域からの横からの情報の往来がどう絡んでいくかが重要です。今回の議題は、行政の仕組みや市民との関わり方にも関連すると思いました。

コミュニティの話がありましたが、意識してコミュニティを作ろう、仲よくしようというよりは、情報の提供や発信、情報リテラシーの育成や学習、全て協働で取組み、その中から自然発生的にコミュニティが醸成されていくのではと思いました。

## ○ 委員

私は子どもサービスを中心に、長年、図書館の方と一緒に学び、活動してきました。

練馬区には、会計年度任用職員の図書館専門員の方がいて、とても頼りになる存在です。今後も大事に活用してほしいと思います。ボランティアの方々にも専門性の高い方もいらっしゃいますが、図書館でボランティアの専門性が生かされるためには、それをコーディネートしてくれる図書館職員が必要です。

また、プレゼンテーションの中で、学校の図書室とおっしゃっていましたが、それは学校図書館法に則り、学校図書館という呼びの方が良いと思います。

全ての人へのサービスという視点は、これからとても大事だと思います。全ての人が当たり前のように日常的に図書館を利用できることが理想です。ただ、色々な人のニーズに応えるためには、ある程度の広さも必要です。練馬区の各図書館一つ一つを見ると、サービスや機能においてしっかりと立ち上げてきた印象はありますが、10年後、20年後のことを考えると、広い中央図書館が必要だと思います。前回、教育長が、練馬区はたくさん資料があるが、所蔵する場所が足りないため、区民にリサイクル活用してもらっているとおっしゃってました。図書館に所蔵されている資料は、大変貴重な財産です。たくさんの資料がきちんと収蔵できて、利用者に提供できるスペースは必要だと思います。

また、図書館を情報館という名前に変えようという話が出ておりますが、図書館が本しかない場所というイメージはもうずいぶん崩れてきているのではないのでしょうか。図書館の

名前は変えずに、本を置いているだけではないと発信することが必要なのではと思いました。

## ○ 委員

これからの図書館は、地域や人々の暮らしの多様化に合わせたニーズに対応していく必要があると思いました。例えば、同機種スマートフォンは最初はみな同じ機能ですが、使用していく中で自分の気に入ったアプリ等を入れてカスタマイズしていきます。図書館も、基本としての図書館があり、最初から特色を作るのではなく、その地域のニーズに合わせ、少しずつ加えていけば良いと思いました。一つ一つの要望を全ての図書館でやるのは、難しいです。例えば、障害のある方が練馬区にたくさんいらっしゃるとしても、全ての図書館を利用しているわけではありません。この図書館ではこのサービスは不要、この図書館ではこのようなニーズがあるから拡充するなどを考え、子ども向けに特化した図書館なら子ども館、メディア的なものが発達している図書館であればメディア館というように特色を打ち出した名前にするのも良いと思います。

## ○ 委員

プレゼンテーションの中で、放課後、子どもたちが行けるような講座の開設という話がありました。先ほど、「まち」の先生の話が出ましたが、それは誰が動かすのか、講座内容は適切なのか、その判断は誰がするのか、その辺りのコーディネートも必要だと思います。図書館専門員の話もありましたが、そういう方がそのようなコーディネートも出来るのかも分かりません。一つ一つ具体的に考えていくと課題や問題点等、見えてくるのではないかと思います。

本を介して人と人がリアルに関わる、ビブリオバトルというのをよく書店でやっています。講座ではないですが、そのような事業の見直しも必要だと思います。

それと声帯摘出者向けのAI音声合成プラットフォームの話がありましたが、面白いものがあるんだなと思いました。オーディオブックが聴けるオーディブルというシステムがありますが、いずれは図書館でも利用できるようになるのでしょうか。もう既に前例はあるのか、オーディオブックと図書館は競合するシステムになるのか、専門家の方の意見を聞きたいです。

今は、子どもも大人も、オンライン授業や会議などでタブレット端末を利用することが多いです。端末の使い方も相当グレードアップしていると思うので、図書館は後追いつめるのではなくリードするつもりで発展していく必要があります。今まさに、そのターニングポイントにいるのではと感じました。

## ○ 委員長

ビブリオバトルは、各地の図書館や中学校、高校の学校図書館でも熱心に取り組まれています。オーディオブックについては、いわゆる朗読CDと呼ばれているCDタイプのものを所蔵している図書館が多いですが、最近はオンラインサービスとしてオーディオブックサービスを導入している図書館もあります。八王子市立図書館は実施しています。そのようなサービスも情報を広げ、深めるという視点では非常に有効な手法だと思います。

## ○ 委員

プレゼンテーションにある事例の、想像の素晴らしさに感銘を受けています。児童館や青少年館、区民館や老人館等、各年代層に向けた施設が色々ありますが、世代によって施設が変わるのではなく、図書館があらゆる年齢層の人たちに平等に、情報や本等を介し集える場所になれば良いなと思いました。また、まちの名人、商店街の名人等と交わるというのも大変素晴らしいと思います。

## ○ 委員長

図書館を、拠点としてどう活用していくかという視点を中心でしたが、学校図書館との連携というのも、参考となる視点ではないかと思います。また、高齢者施設や障がい者施設等、学校以外の施設との連携というアウトリーチの視点も、まさに情報を広げ、深めるというアプローチ方法の一つです。そこに図書館の機能やサービスをどう広げて届けるのかという視点を含め、考えるのも良いと思います。

## ○ 委員

事例は、あくまでも私の側にいた人たちから想定したニーズにより作成したものです。上から下ろすのではなく、実際の生活者たちのニーズをどんな風にすくい上げていくかという視点は大変重要だと思います。ただ何もかも全部となると特徴が無くなり、煩雑になり過ぎるので難しいです。人それぞれニーズは違うので、どこに重点を置くのかが大事だと思います。ながら、身近な人を思い浮かべて事例を書きました。

各館がそれぞれ特徴を持つことも良いと思います。ただ、予約した本が3日で来るとか、タブレット端末が本だけでなく、色々な情報が見られるようになって自由に使えるとか、ベースとして全館同じようにやる事と、それぞれの地域によってニーズが変わる事もあるのではないかと思います。

今回、カフェ以外は、今の図書館でもできるような事を想定しました。ただ、未来という視点でいくと、もっと枠を超えていけるかもしれないです。

先ほどコミュニティという視点での意見がありました。私は元々、自分の活動でコミュニティばかり作っているのに、なぜ今回のプレゼンテーションでは入れなかったのかと言う

と、あくまでも、人が知識を広げ深めるためには、という切り口でやってみようと考えたからです。広げるという時に、人が介すると良いなということであって、コミュニティという機能が図書館に無い方が良いと言っているわけではありません。それはまた別の日にそこだけ取り上げて話を深めていきたいぐらいです。

#### ○ 委員

図書館にどのような役割を持たせるのかというのは、大変大きなテーマになると思います。練馬区のホームページに、施設一覧のページがあるのですが、図書館は、生涯学習センターや美術館、文化センター等の施設と一緒に「文化・学習・宿泊」という枠にカテゴライズされていました。これらの施設の中で誰もが知っているのは、ダントツで図書館で、図書館はほとんどが歩いて行ける範囲にあります。この特徴を活かすと、図書館にある機能は、各地域それぞれに合ったものにしていくというのが一つのヒントかなと思います。どの地域にもある図書館としての特性を活かした役割を考えた時に、コミュニティの場とすると、特定の人のため場になってしまうかもしれません。特定の人のためにあるものが各地域にあるというもおかしな話なので、図書館はもっと普遍的なものであるべきだという考え方もあるのではと考えました。

#### ○ 委員長

ほかに質問やご意見等ございませんでしょうか。

#### ○ 委員

杉並区には、ボランティアが運営する図書室がある病院があります。練馬区には光が丘と練馬高野台に大きな病院がありますが、入院患者向けの本の貸出サービス等は行っているのでしょうか。

#### ○ 事務局

練馬区にはいくつか大きな病院がありますが、お申し出のある病院には団体貸出という形で本を利用頂いております。今はコロナでやっておりますが、数年前には入院しているお子様向けに読み聞かせサービスも行っておりました。病院だけでなく、介護ホーム等でも団体貸出等のサービスは行っております。

#### ○ 副委員長

ユネスコ公共図書館宣言には、公共図書館の理想的な形が色々と書かれております。プレゼンテーションは、そこに合った提案がたくさんあり、大変感激しました。

図書館をコミュニティとして活用することは、最近の流行りと言いますか、メインで捉え

られることも多いですが、それには良い点もありますが、同時に問題点もあると思います。コミュニティの形成は、毎回特定の方が参加することで、孤立を防ぎ、様々な経験が出来て良い面もありますが、一人が良いという方も一定数います。図書館のリピーターは、一人が良いという方も多いので、好きな時に参加して、好きな情報だけが得られるような、出入り自由に出来る視点も大事だと思いました。

練馬区には様々な世代の方がいらっしゃいます。世代別に問題点等もあると思うので、それも今後、課題として出していけたら、図書館がより活用されていくのではと思いました。

学校との連携という意見もありましたが、学校と連携していくためには学校の関係者や教員とのコミュニケーションも大事です。そのあたりは今どのように実現されているのかなと思いました。

様々なサービスを行う上で、図書館司書がコーディネーターとしての存在や役割を担うことも大事になってくるという意見もありましたが、イベント事業時には、図書館司書だけでなく地域の経験豊富な方にもコーディネーター的な役割を担って頂けると、より充実するのではと思いました。

最近、子どものプログラミング教育が必修化されました。単純にプログラムが書けるようになるということではなく、問題を発見し解決する能力等、そこに至るまでのプロセスを考える力を育むことを目的として取り入れられています。そのような視点も取り入れたイベントや企画も、図書館で考えていけたら良いのではと思いました。

## ○ 委員長

本日は、「情報を広げ、深める方法」ということで、皆様のご意見を頂きました。本日のプレゼンテーションを核に、皆さんそれぞれの意見やアイデアを出し合うという目的でした。

ほかにもご意見がありましたら、各自事務局まで連絡ください。

### (3) 検討委員会のこれまでの経過とまとめに向けて

事務局より、資料3「検討委員会のこれまでの経過とまとめに向けて」に基づき、説明

## ○ 事務局

この検討委員会はコロナにより半年遅れで、昨年10月からスタートしました。これまで、図書館の見学やZoom会議なども交え、毎回様々な意見を頂き、充実した意見交換等が出来たと思います。ご協力ありがとうございます。

これまでの皆さんの意見を参考に、新しい図書館構想を策定していきたいと思います。

この検討委員会では、情報拠点としての、これからの地域の図書館のあり方をテーマにお話しさせて頂きました。

報告書は、「1 検討の経過」、「2 情報拠点のイメージに関する意見」、「3 イメージの実現に向けた取組に関する意見」の目次立てで構成し、作成していく考えです。報告書の内容とまとめ方については、委員長と副委員長とも相談のうえ、次回の検討委員会の前に皆さんにお送りしますので、第9回でまとめさせて頂きたいと考えております。

#### ○ 委員

次回の検討委員会でまとめのことでありますが、これまでの議論の中で、図書館司書やコーディネーターに関する話が出ています。まだ、図書館を中心となって回していく人たちの人数や、専門性等の話は深く話していない気がします。本日、私が提案した「まち」の先生は、地域にいらっしゃる名人の方で良いかもしれませんが、図書館司書やコーディネーターの方は相当な専門性が無ければできない役割です。そのような人材の確保や育成に関しての検討はまだ十分でないと感じています。

#### ○ 事務局

この検討委員会では、今後の図書館の大きな方向性について皆さんから様々なご意見を頂き、意見交換をして参りました。今後、どのような柱立てをして構想に活かしていくかということを庁内で検討して参ります。

個々の取組について、どのような仕組みで行うかなどの具体的話につきましては、ご意見がございましたら、事務局に寄せて頂ければと思います。

(4) その他

(委員による質問・意見無し)

(5) 次回の予定

閉会